



サポート君

かかみがはら

K A K A M I G A H A R A



押してる？ うん。押してるよ。

社協那加一支部の方の指導のもと、車いす体験学習会が那加第一小学校4年生を対象に行われました。少しの段差でも、車いすの人はたいへん。街で車いすの方を見かけた時にお手伝い如果能たら素敵ですね。



この広報紙には、皆さんの会費と
赤い羽根共同募金が使われています。

「わねえと わねえられて みんなが主役のまちづくり」

の基本構想をもとに、市民の皆さまからの会費等を財源として次の事業を行いました。☆は新規事業

法人運営事業

- 理事会・評議員会の開催
- 会員の募集、自主財源の確保
- ・一般会員36,381世帯
- ・賛助会員895法人・11団体

企画広報事業

- 第44回社会福祉大会の開催
(約1,100人参加)
- ・福祉関係功労者の表彰
- ・石原良純さんの講演
- ☆社協キャリアクター「サポート君」のピンバッジとストラップ作成

地域福祉活動事業

- 支部社協活動の充実・強化
- ×ニュー事業(助成事業)の推進
- 支部長会の開催
- ボランティアハウスの推進・立ち上げ支援
- (新規3ヶ所含む67ヶ所)
- 支えあいサポーター塾の開催
(7日、35名修了)
- ☆支えあいサポーター・フォローアップ研修の開催(2回)
- ボランティアハウスのつどいの開催(421名参加)

市民福祉講座の開催(328名参加)

- ☆近隣ケアグループ活動の支援
(登録数286グループ・1,920名)

障がい者卓球教室の開催

- ファミリースポーツセンター事業の受託運営
- ・登録248名
- ・コーディネーター実績511件

会員登録の開催(72名参加)

- 口腔機能向上・栄養改善講座の開催
(8回、16名参加)

車いす・レクリエーション資材の貸出

- ☆中部学院大学との包括的連携に関する協定締結

ボランティアセンター事業

- ボランティア相談・登録・斡旋
・登録数88団体(2,599名)
- ・個人87名 新規登録6団体
- ボランティア養成講座の開催
・手話(入門12名・基礎10名)、要約筆記(基礎3名・応用1名)、音訳(5名)
- 収集ボランティアサロンの開設(11回、71名参加)
- ボランティア活動保険の加入

福祉有償連送事業

- 利用者登録 104名
- 利用実績 1,741件

共同募金配分事業

- 福祉教育の推進
- ・車いす、アイマスク体験、総合的な学習への講師派遣

☆福祉推進校事業(小・中学校全25校・各務原養護学校)

- 第29回福祉フェスティバル
- 母子父子福祉事業への支援
- お達者でクッキングの開催
(2回)

○社協かみがはらの発行(4回)

日常生活自立支援事業

- 継続契約26件・新規11件
- 生活支援員研修会の開催

生活福祉資金等貸付事業

- 新規貸付
- ・総合支援資金33件
- ・福祉費4件
- ・緊急小口資金33件
- 相談件数585件
- 高額療養費貸付280件

高齢者生きがいセンター川島園事業

- 開設日数140日
- 1,060名利用

地域包括支援センター事業

- 地域包括支援センターだよりの発行(3回)
- 高齢者包括ケア会議の開催(3回)
- つながり交流会の開催(6回)
- ☆つながり声かけマップ作成・配布
- 総合相談支援
相談件数 567件
- 介護予防プランの作成
2,292件
- 地域での出前講座
介護予防教室等79件
- ボランティアハウス等への健康指導103回

介護保険事業等

- 居宅介護支援事業
ケアプラン作成1,820件
- ホームヘルプ事業
2,549名
- 訪問入浴介護事業213名
- 老人デイサービス事業
5,193回利用
- ・秋祭の開催



ふれあいサロン不動丘(健康講話と血圧測定)



ファミリーサポート会員交流会



デイサービスセンター秋祭の様子

社協会費は

福祉のまちづくりの財源です

本年も8月を社協会員・会費募集月間として、自治会長さん、組長・班長さんのご協力により、会員・会費募集を行います。

会費は市全体の福祉事業はもちろん、支部社協活動やボランティアハウス事業など地域の福祉活動の貴重な財源となっています。



前四ふれあいおしゃべり会（社協那加三支部）



社協那加一支部健康づくり講座（ポールリレー）

お互いに支えあい、住民が主役となる福祉のまちづくりを進めるためにも市民の皆さまにご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、法人・事業所の皆さまには、民生委員児童委員さんを通じて賛助会費の募集を依頼させていただきます。

何卒、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社協役員紹介（敬称略・順不同）

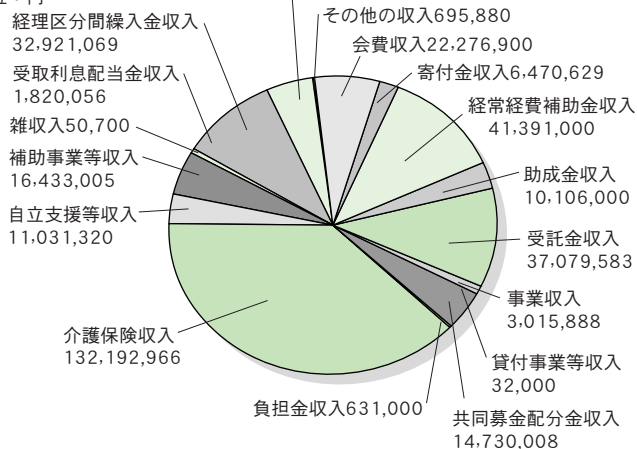
役職名	氏名	役職名
会長	森 真	市長
常務理事	紙谷 清	市社会福祉協議会常務理事
理事	浅野 健司	市議会議長
理事	松尾 誠司	市自治会連合会長・稲羽川島自治会連合会長
理事	花田 澄子	市民生委員児童委員協議会長
理事	後藤 勇	那加自治会連合会長
理事	長縄 祐吉	鵜沼自治会連合会長
理事	横山 隆一郎	蘇原自治会連合会長
理事	有我 尉	那加東地区民生委員児童委員協議会長
理事	高井 鼎治	稲羽地区民生委員児童委員協議会長
理事	服部 光成	鵜沼西地区民生委員児童委員協議会長
理事	加藤 博	川島地区民生委員児童委員協議会長
理事	高安 義英	商工会議所副会頭
理事	木田 恵次	市医師会長
理事	藤丸 勝義	県身体障がい者福祉協会各務原支部長
理事	澤田 佳辰	市シニアクラブ連合会長
理事	伊藤 佐代子	市手をつなぐ育成会長
理事	羽場 富子	市食生活改善協議会長
理事	五藤 龍彦	福祉事務局長
監事	石田 行男	社会福祉経験者
監事	橋本 康代	市倫理法人専任監事

平成22年度 資金収支計算報告書

収入の部

¥346,721,408

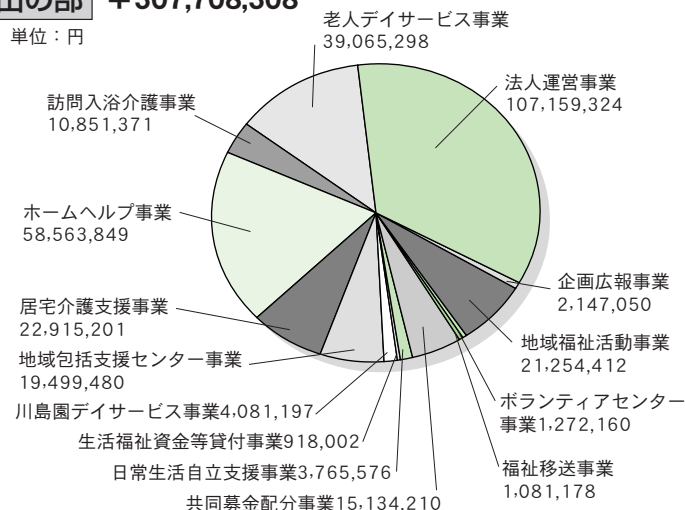
単位：円



支出の部

¥307,708,308

単位：円



当期資金収支差額合計 ¥39,013,100

声かけからはじまる

近隣ケアグループ活動

各務原市社会福祉協議会では、市から委託を受けて近隣ケアグループ活動の推進に取り組んでいます。今年度は、290グループ、2008人に登録いただいています。

なぜ、近隣ケアグループが必要なの？

家族間や地域住民のつながりや関係が希薄化する中で、地域から孤立し、日々の生活に不安を抱える人が増えてきています。

市社協でも支部社協活動やボランティアハウスなど地域住民による仲間づくりが活発に行われています。しかし、毎日の生活を安心して過ごすためには、同じ地域に住む、より多くの方からの日常的な見守りや助け合いが必要となつてきます。

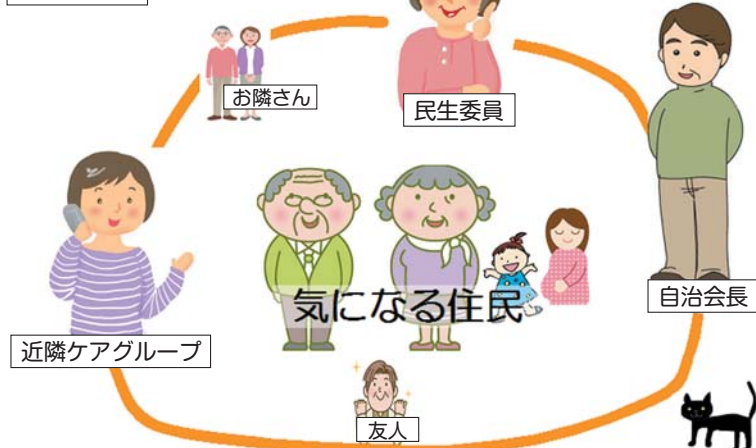
近隣ケアグループ活動は、

近隣ケアグループの役割

市役所高齢福祉課

地域包括支援センター

支部社協



「声かけて 見守りながら つなぐ 近所」
近隣ケアグループ活動をわかりやすくまとめてみました。合言葉のように、まずできることから始めてみませんか。

近隣ケアグループ活動って何をしたらいいの？

1. はじめは、声かけ

まずは、意識してご近所さんにあいさつや声かけをしてみましよう。何回か声をかけていくと、おのずと顔見知りになることができます。顔が見える関係ができると、話ができるようになります。難しく考えずに、地域をちよつと気にかけてみなさんにあいさつ、声かけをはじめてみましょう。

2. 困ったときはお知らせを

話をするうちに困りごとや難しい内容の相談もあるかと思ひます。そんな時は、まず民生委員・児童委員さんにご相談ください。また、自治会長さんにも伝えないと解決できない場合もあると思ひます。また、複雑な問題や福祉サービスを必要とする場合は、市役所や地域包括支援センター、社会福祉協議会へ相談してください。

3. 見守ることで安心を

気になる方を多くの人で見守ることにより、その人は安心した生活ができます。地域の「さりげない」見守り活動で、いざという時や自分たちの住むまち自分たちで守っていくという絆を育てましょう。

4. つなげる、つながる活動

声かけやあいさつは一人でもできますが、一緒に活動できる人が増えれば、見守り活動も広がります。グループ員一人に負担がかからないよう役割分担をする話合いをもったり、ほかのグループと情報交換を図れば活動が次につながり、楽しさもより感じられます。





声かけや見守りを通して支援が必要な人をその地域で支える取り組みです。

この活動に取り組むことで、地域生活において孤立することなく、日々の暮らしを安心して続けることができます。

また、緊急時や災害時にも住民同士が助け合い、早く適切に対応できることにもつながります。



声かけや見守り活動のヒント

活動のヒント

1. 雄飛ヶ丘市営住宅での取り組み

「孤独死だけは」の思いから互いに見守る花飾り

近くの市営住宅で孤独死があり、「孤独死は寂しいから」と那加雄飛ヶ丘市営住宅に住む8世帯で、お互いに見守る手立てがないかと住民のひとり民生委員さんに相談されました。以前、一人暮らしの男性が心配で「ピンポン」と玄関のチャイムを押しても返事がなく、連絡も取れずに困ったことがありました。自治会長さんや班長さんにも相談し、回覧版も声をかけて渡すようにしていますが、それに加えて自分たちがまずできることを考えてみることにしました。

活動のヒント

2. 鵜沼三ッ池町での取り組み

散歩をしながら声かけの近所めぐり

早朝、犬の散歩をしながら近所に声かけをして回る近隣ケアグループのAさん。

近所には一人暮らしの方や高齢者世帯が多く、毎日住宅街を歩いていると、高齢の方は感心するほど毎日規則正しい生活をしていることに気づいたのです。

最初に家を出た右側のお宅は、水やりなどしてお庭を手

入れ
する
おじ
いさん。



「おはようござい
ますー！」
とあいさつ

を交わします。しばらく歩くと、雨戸が開いているか確認する気になる高齢者のお宅が目に入ります。「ああ、今日も元気に起きられているな」とひと安心。次に反対側のお宅に目を移すと、窓は閉まっているものの、部屋の奥のイスに腰かけて手を振って微笑んでくれているおじいさん。「お元氣そうだ」と思わずAさんにもっこりと微笑み大きく手を振り歩きます。

カーテンが閉まりっぱなしのお宅を見つけると、「心配だから帰りにもう一度通つてみよう」と気かけます。

毎日の散歩でも、「カーテンが開いているかな」、「新聞はちゃんととられたかな」などちよつと近所さんを気にかけて歩くことが、だれでも気軽に始められる見守り活動のスタートです。

私は震災後テレビから伝えられる被災地の状況を見て、居ても立つても居られなくなり、ちよつど時間に余裕があつたため、5月に1週間かけて宮城県気仙沼市へボランティアに行つてきました。東北地方へ行くのは初めてでしたし、各務原から1,000km近くあるので、一人で車を運転するのは多少不安がありましたが、「なにか役に立ちたい！」「今しかできない！」という思いが勝りました。

東北に入り海辺が近くにつれて、建物が津波の影響なのかボロボロになっていきました。ただ、私はそれなりの覚悟を持って挑んでいたため、冷静に受け止めることができました。現地のボランティアアセンターに着くなりすぐに作業にとりかかりました。私がおこなった作業は、屋根が流されなくなつてしまった家の解体と、がれきをガラス、木材、金属に仕分けし、軽トラックの荷台に載せる作業が中心でした。とにかく量が多く、重さもかなりあつて大変な作業でした。現場の被災された方とは、あいさつを交わす程度の関わりしかありませんでしたが、

被災地で暮らす姿を目の当たりにして感じたことがあります。これまでは大きな災害が起きたときは、国や県、市町村が何とかしてくれるものだと思つていました。しかし、これほどの大きな災害だと必ずしもそうとは限らないこと。自分を守るのは自分であり、家族を守るのは自分たち家族。地域を守るのは行政だけではなく、住民である自分たちである。



ボランティアに参加して

鶴沼大伊木町
もとき
岡部 幹 さん
(22才)

なく、住民である自分たちである。住民同士が声をかけあい、それぞれが役割を担い協力しあひながら生活してまいりました。国を守るのも、自分たち国民ではないでしょうか？

近い将来、東海地震・東南海地震が起る可能性が非常に高いといふことは皆さんも知つているはずですが、自分や大切な家族を守る準備はできているでしょうか？今回の東日本大震災で学んだ教訓を生かすことが必要ではないでしょうか？

私も家族と災害について話し合い、自分・家族を守るため防災グッズの点検をしたところですよ。

災害ボランティアレポート ～肌で感じた市民の声～

4月18～21日岐阜県が派遣した災害ボランティア隊の活動に参加し、岩手県大槌町で活動した。天候が悪かつたため現地での実際の活動は、19日と20日の各半日で計4時間ほどだったが、被災地に行つてはじめてわかることが幾つかあった。

我々の主な作業は、津波のために床下や庭先に積もつた汚泥を排出すること、約3cmほど積もつた汚泥は、よく観察すると下から砂・土・油分を含んだ泥の三層になつていた。

庭先では元の庭面と堆積した汚泥層がはつきりと分かれるけれど、床下などの砂利部分に堆積した汚泥は砂利ごと掻き出す事になる。汚泥は水を含んでいるのでとても重く、女性では無理な作業だ。

作業の服装では、エプロンと腕カバーは、泥汚れ防止に役立った。特に腕カバーをゲートルきゃはん(脚絆)代わりに使つてみたが、足

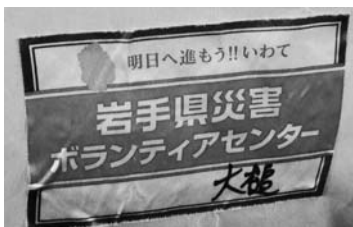
現地に行つて

尾崎南町
杉本隆宏さん
(64才)

回りがすっきりして動きやすかつた。作業の足場が悪くあちこちに釘が出ていたりするので、中敷きに鉄板が入つた安全靴着用がベストで半袖シャツでは怪我をするおそれがあることが解つた。道路のあちこちには、仮設トイレが設置されていた。近くに公共トイレがあるわけではなく、一般住宅のトイレを借用するわけにもいかない。仮設トイレは、作業途中に土足のままで使用出来るのでとても重宝だつた。



また、被災地にはボランティアを装つて犯罪を企てる者も入り込んでいるといふことだつた。このためボランティアアセンターでは、センターが受け付けたボランティアであることを示すワッペンを配布して犯罪を防止する工夫をしていた。我々にとっては、着衣に貼り付けたこのワッペンと自分の名前を書いたガムテープ片が、身分証明書の役割を果たしてくれた。





祝 創立30周年 音訳ボランティアあじさいの会

あじさいの会（野村武代表）が、創立30周年を迎え、6月15日、これを祝う集いを開催しました。視覚障がい者の利用者（リスナー）を含め、およそ50人の参加者は、あじさいの花に彩られた会場で、創設期を懐かしみ、手作りのクッキーやコーラスを楽しみながら、和やかなひと時を過ごしました。

代表は「ボランティアのほうこそ、リスナーの励ましに元気をもらっている」と語っていました。

書いて伝える気持ちや言葉 ～要約筆記奉仕員養成講座～

聴覚に障がいがある方に、講演や研修会の場でOHPに内容を書き写して伝えるものが「要約筆記」です。また、個人の場合には紙に筆記する形で言葉を伝えます。

講演会や研修会、また病院や公的機関での手続きの際などに、こういった要約筆記活動をしていただく方を養成する講座を開催します。

文字を書くことが好きな方、楽しく学びませんか。

■日 程 9月3日～12月17日までの毎週土曜日
(全16回)

■時 間 午前9時30分～11時30分

■会 場 総合福祉会館研修室

■講 師 要約筆記サークル「かがみの会」他

■定 員 15名（定員になり次第しめきります）

■受講料 1,050円（テキスト代）

■申込み 総務課

電話 058 (383) 7610

知的障がい児との「夏休みふれあい キャンプ」ボランティア募集

日時 8月19日（金）午前9時から

8月20日（土）午後3時頃まで

場所 少年自然の家（鵜沼小伊木町）

内容 知的障がい児（主に小中学生）のキャンプに参加し、ゲームや食事づくりなどの活動を共にすることにより、障がいについての理解を深める。

参加費 無料

募集人員 6名（高校生以上で宿泊できる方）

締切り 7月31日（日）

申込み 各務原市手をつなぐ育成会

連絡先 大谷 ☎058 (384) 8313

金森 ☎058 (370) 2855



昨年の様子



私たち、「きの実」は、0才児から本の楽しみを覚えてもらえるように「との思いからグループ活動を始めました。同じ職場どうしの気心が知れた仲間であり、子どもたちとのふれ合いを楽しみつつ、良い絵本との出会いを広めて行ければとの思いで活動しています。

絵本読み聞かせ グループ 「きの実」



ボランティアグループ紹介

74

私たちが、「きの実」は、0才児から本の楽しみを覚えてもらえるように「との思いからグループ活動を始めました。同じ職場どうしの気心が知れた仲間であり、子どもたちとのふれ合いを楽しみつつ、良い絵本との出会いを広めて行ければとの思いで活動しています。

今後は、さらに良い絵本との出会いを求め、これからますます子どもたちに絵本の楽しみを覚えてもらいたいと思います。そのために私たち自身も絵本読み聞かせの練習に励み、さらなる向上を目指します。今後は、親子教室にも参加させていただき、お母さん方にも絵本とのふれ合いを楽しんでいただき親子の絆を強めてもらえるような活動をしていきたいと思っています。



緑苑小での読みきかせの様子



昨年度フェスティバルでのひとコマ。今年も楽しいからみんなで来てね!!

予告

福祉フェスティバル 2011開催!!

日時 9月11日(日) 午前9時～午後3時

会場 各務原市民会館(中央町)

ミニSに乘ろう、森のさんぶる屋さん、パフォーマンスショー、各種バザー、活動展示など楽しさ盛りだくさん。お誘い合わせの上、お出かけ下さい。



職員募集

《福祉有償運送運転手》

(福祉車両を使った移送サービスの運転業務)

■雇用形態 パート職員(時間給)

■資格要件

① 65歳未満までの健康な方

② 普通自動車免許(二種)

■勤務日時 月曜日～金曜日のうち指定する日時

■問合せ・詳細

総務課 ☎058(383)7610

《ホームヘルパー・デイサービス介護員》

■雇用形態 パート職員(時間給)

■資格要件

① 55歳未満までの健康な方

② 介護福祉士またはホームヘルパー2級以上

③ 普通自動車免許

■勤務日時 月曜日～日曜日

8時30分～17時15分のうち指定する日時

■問合せ・詳細

事業課 ☎058(383)7623



私たちと一緒に働きませんか
(デイサービスの外出活動でのひとコマ)

会費募集に伴う平日夜間延長及び 休日の窓口開庁のお知らせ

8月は社会福祉協議会の会員募集月間です。このたび会員募集・会費納入の受付のため、下記のとおり平日夜間及び日曜日にも開庁します。どうぞご利用ください。

- ① 8月28日(日)と9月4日(日) 午前8時30分から午後5時15分
- ② 8月29日(月)～9月2日(金) 各曜日とも午後8時まで

善意のご寄付をいただき 誠にありがとうございました

(敬称略・順不同 平成23年4月11日～平成23年6月10日)

金 銭

- ・ 鶴沼地区歌謡教室
チャリティ合同発表会実行委員会 61,174円
- ・ 波多野 耕三 9,000円

物 品

- ・ 夢屋各務原店
- ・ 舟田 政嘉
- ・ 山口車体工業株式会社
- ・ 堀 美鈴
- ・ 匿名1件



ひとこと

ジメジメした梅雨が明け夏を迎えようとしています。毎日快適に過ごす為に何かいい方法はないのでしょうか? 快適に過ごすためにはストレスを溜めないことです。そこで、私流ストレス解消法をご紹介します。読んでくださいます。古新聞をひらいて「せーの」と声をかけ、つきに破るとなぜか「心がスッキリ」。お風呂掃除やトイレ掃除、階段の雑巾がけをがむしゃらにすると「きれいになってスッキリ」。庭の草引きをひたすらすること「汗が出て体がスッキリ」。また、いい香りを身に付けることで、イライラが解消し「心がスッキリ」。それと唯一のストレス解消は…愛犬と昼寝をすることです。☺。

(小林ゆかり)